

紹介

◎東京寫眞研究會第一回品評會畫集第二輯 印畫十五面、鮮麗なる印刷の下に出版されたり。人物風景何れも位置濃淡の調子面白く畫家の參考としてまた遺憾なし(定價未詳、東京日本橋區本町小西本店發行)

問に答ふ

■一 パレットの塗りの剥かれたるは素人にて塗り直しの出来ぬものにや■二 繪を立てかけて寫生する時腕枕を用ゐるも細部を満足に描けず如何にしてよきや■三 繪畫に散漫との評を受けること多し如何にせば散漫を避け得べきや(常陸の人)◎一 エナメルにて塗りよく乾きて後ち細かきヤスリ紙にて磨ればよしといふ、但し編者の實驗にあらず■二 戸外寫生の際に腕枕など用ひる必要なし、そんなに細かく畫くものでなし、室内にて人物肖像など描く際はこれを用ふるのとあり腕枕を用ひても描けぬ程の細部は

西洋畫を描く上に省略して可なり。但如何なる細き線でも點でも腕枕を用ひて畫けぬといふものあらざれば、恐らく腕枕の使用法の誤りか■三 繪には必ず主眼とすべき處ある筈なり、而して其主眼以外に主眼よりも人の目を惹くやうな色彩がある時は、散漫となりて統一せぬなり、假令ば、こゝに神社あり、後ろに森あり、横に手洗所ありとして、此處を寫生する時、神社を主として畫くのなら他のものは背景なり、然るに神社以外の手洗所も、神社と同様の強さを以て畫く時は、一國に二人の王ある如く、統一を失ふなり、況んや背後の森の幹を黒々と畫いたり、横合から強い色の枝を出したり、畫面の隅に鮮やかな色の人物を畫いたりすると何れが畫の主眼だか分らぬことになり、即ち圖樣が散漫となるなり、故に神社なら神社を中心として、他のものはそれに比較して弱く畫くので、これは故らに弱くするのではなく、實際主とするものを見て首を廻すことなく他の物を見ればボンヤリ見ゆる筈なり、その心持で畫けば

自然散漫の弊より脱し得べきなり■婦人にして夏期講習會へ出席することを得べきや(桂花女)◎差支なし■一 墨繪の素養なきものにて講習會へ出席し得べきや■二 館山北條附近は要塞地なりや■三 要塞地寫生願書は提出後何日目位に許可さるゝにや■四 日本水彩畫會々友は現在何名程なりや■五 シコーといふものカンプーヂの代用として可なりや(自然兒)◎一 差支なし程度に應じて各別に教授さるべし■二 要塞地帯にあらず■三 日限は一定せず又許可されぬ場合もあり■四 現在百十名程なり■五 雌黃は代用し得べし廉價なるチューブ入のものに優ること萬々■會友なれば直接諸先生に肉筆畫の揮毫を依頼し得べきや(茨城好畫人)◎會友にあらずとも本會へ御申越あらば取扱ふべし■『みつゑ』の缺本は何號なりや又割引の程度を知りたし(初學者)◎第一より十三迄十五、十七、十九、二十、二十九は缺本他の殘本三十八迄は十冊以上の注文に限り一部送料共十錢の割にて御求めに應ずべし■私は直接讀者ではないが投書

して宜しきや（北海道野坂生）◎差支なし

讀者の領分

■前々號の『畫室』は面白く讀んだ、先生に咫尺してゐるやうで嬉しかった。また前號の『風景畫の二別』『自然の約束』も面白かつた『圖按法概要』はどしどし續けてもらひたし、大下先生の『春鳥畫談』は感銘したこゝいふ様な訓話をいろ／＼掲載して吾々初學者の頭に吹き込んで貰ひたい（京橋KT生）■小島先生の『ラスキンの山岳論』は後があるやうですがお早く願ひます每號々々失望してゐるのは僕一人ではありますまい（静岡靜陵生）■一畫架及び佛國製十六色入水彩繪具安價に讓る箱に損所なく繪具は半分位ひ使用せしもの五個他は一杯あり二ハツ切大水彩畫を送るから美術雜誌と交換して下さる方はなきや（松本市宮淵忠地英雄）■鎌倉の講習には是非出席しますが四國邊から往くに便利な處で一度は開いて下さい（伊豫妻島生）■九ツ切スケツチ箱譲りた

し御望の方は御照會を乞ふ（東京深川區門前町十八伊坂淺吉）■小生は會友となつたから宜しく御交際を願ふ又水彩畫の御交換も願ふ、田舎に居るものにはお互に研究の助になりませう（東海道興津町遠藤方若林生）■口繪に靜物畫を時々出されたし（茨城好畫人）■『みづゑ』第五、五十錢にて譲り受たし（石狩國夕張郡角田村福井善吉）■繪葉會競技會の開催を乞ふ（牡丹）■鎌倉とは大失望二年も關西で開かれたのだから無理の願かは知られど今一度催して貰ひたし（和歌の浦生）■鎌倉へは喜んで出席しますが何卒先生と一しよに寢起して研究することの出来るやうにおたのみ申します（中山巍）■鎌倉師範校内にも圖畫研究會があります會員は四十人以上居ますから講習會には大に盡力して出席致させます（鎌倉SK生）■一畫架の中古送料共壹圓七十錢着金次第送る二不相變肉筆繪葉書交換を乞ふ（鎌倉長谷町堀谷紫海生）■肉筆水彩畫交換を乞ふ未熟ながら必ず返信す（東京牛込區鶴卷町二二八長島方星野永一）■僕

の知つてゐる東京附近の好寫生地を案内しやう、まづ近處では植物園内、近來は毎日寫生に集まる人が澤山あるので氣の弱い連中には一寸來られない、次は高田の栗林、それから小日向の久世山、音羽の護國寺もよい、雜司ヶ谷鬼子母神の槻並木は誰れても一度は畫いたらう、西から南へ往つて戸山の原は好寫生地だ、少し遠いが新井の藥師も繪になる、青梅街道甲州街道など新宿から中野方面の道路山水は面白い、十二社は俗地になつて今はダメ、モット遠くゆくなら井の頭辨天の池はよい、それよりも石神井シヤクジキの池の方が靜かで面白い場所が多い、花のない時分の小金井も捨てたものでない、府中から多摩川を越して百草園も眺望がよい、武藏野を見るなら狹山の丘もよい、戻つて來て千駄ヶ谷代々木の邊は人家が殖えたがマダスケツチに適する處も少しはある、他の方面は追々に御案内致さう（東京寫生通）■廣く肉筆繪葉書の交換を乞ふ（岩手師範、菅原藤花）